

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193400047		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	ファミリーケア本巢		
所在地	岐阜県本巣市三橋鶴舞98		
自己評価作成日	平成26年1月31日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2193400047-008PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成26年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ダイバーショナルセラピーを取り入れ、自己実現に向けた取り組みを実践する為に、入居者のニーズの把握を行い、一人一人が自分らしく生きていける支援を行います。
又、認知症高齢者の生活でありながらも、今まで生きてきた普通の生活に限りなく近づけ、施設高齢者にならないように配慮している。
医療面では、連携病院からの訪問診療が月に2回、又、訪問看護ステーションからの看護師の訪問が月に2回定期にあり、体調不良の際はいつでも駆けつけるシステムになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、環状線より一本内側の道路に面し、商業地と住宅が入り混じった地域に、平成25年4月から二階建てのグループホームとし開設された。前身はショートステイ事業所であったことから建物内は広く採光もよい。隣接する町の公園は敷地も広く、高齢者がゲートボールをする姿、遊具で遊ぶ親子の姿、近隣の高校生の姿があり、事業所の窓から眺める景色にもなっている。事業所は、専門のスタッフが生活のパートナーとして寄り添い、穏やかで安らぎのある暮らしのお手伝いをするという方針で支援している。母体法人は全事業所が地域と温かい交流のある関係を目指しており、積極的に利用者や家族、地域の人々と行き来できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	和光会の理念を掲示し、朝礼時に唱和しています。又、名札の裏に理念カードを携帯し、いつでも見直す事ができるようにしている。	法人理念「生涯支援サービスの提供」「個人の尊重と共感」「継続的な改善とたゆまぬ発展」の基、利用者の望んでいる生活、持っている力の活用、その人らしい生き方、暮らし方の実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、隣接した公園にゴミがあれば拾ったり、不審な様子があれば警察に通報を行っている。老人会長様が行事に参加下さいます。小学校の児童と触れ合う機会が年1回ある。	グループホームとしては、開設1年未満であるが、自治会に加入し、地域の行事に参加している。子供110番を引き受ける等、地域との関係作りに努めている。	地域密着型サービス提供事業所であることから、更に地域との交流が深まるように働きかけ、地域の人が訪れるきっかけづくりに取り組み、事業所を見てもらい、理解を得たり協力が得られる関係づくりも期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2月に1回開催し、事例を基に認知症高齢者のケアの様子を伝え、認知症になっても安心できるという啓蒙を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況報告書や行事を中心としたフォトムービーを作成し、日頃の事業の取り組みを伝え、話し合う機会を設けている。	隔月に地域公民館で開催。家族の代表・行政・自治会・老人会・人権擁護委員、小・中学校の先生、警察、消防署、公民館館長等多くの人を構成メンバーとしている。事業所利用状況、利用者の現状報告、行政への質問等を行っている。	参加者多数で地域公民館での開催となっているが、会議を事業所内で開催し、参加者に現状を見聞さしてもらい、更に理解を深める機会を作ることが期待される。フォトムービーは、利用者家族の了解を取ることが望まれる。第1回外部評価の報告も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、事業所の現状報告を行っており、質問の時間を設け評価を頂いている。	広域連合地域であるが、運営推進会議には毎回出席している。運営推進会議で、行政への質問時間を設けて参加者からの声も直接届いている。3月より併設で開設する事業について相談したりし、協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外での研修を実施し、伝達にて周知している。	法人が作成した「身体拘束をしないケア」のマニュアルがあり、止むを得ず拘束実施の場合のシートも作成されている。職員は色々な機会を活用し、研修、勉強会を行っている。現在、他利用者へのプライバシー保護に配慮するため、居室に鍵を設置するか検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時など皮膚を露出する際に、あざ等が無いか確認し、異常があれば理由を聞いている。又、研修を受け、伝達研修を行い周知している。		

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	朝礼やミーティングで話し合い、確認している。 又、運営推進会議のメンバーに人権擁護委員を入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まずは経済的な不安や事故の可能性の有無、最後の時までの支援やサポートに至るまで、十分に説明しており、その際に退居の流れを説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に2つのユニットを代表する家族に参加頂き、家族からの言葉という時間を設け、自由な意見を参加者や事業者へ伝える事ができている。	多くの家族は週末に面会があり、職員は利用者の状況報告と共に、利用者・家族の意見や要望を聞いている。内容は職員会議で取り上げ、検討が必要なものは法人本部に伝えるなど対応している。月1回利用者の自筆宛名書きの葉書を発送、通信も含め家族と共に支えあう支援となり、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングや朝礼時に職員の発言できる時間を設け、意見を聞き、内容次第では改善を実施している。	職員が働きやすい環境を作るため、勤務時間の調整に配慮している。職場内で意見の言いやすい環境づくりに努めている。経験の異なる職員のケアの質向上のため、学習担当者はケアに付いての学習会を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望する休日を聞き、ほぼ全ての職員が自分の用事に使う事ができる時間を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プロフェッショナルキャリア段位を導入し、アセッサーによるOJT評価を実施しており、職員のスキルに対してランク付けを行う取り組みを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し情報を共有している。又、グループ内の同種事業所と連携し、書類の統一や、システムの統一などを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーより情報を頂き、それを基に本人や家族にアセスメントを実施し、主訴や状況を把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で主訴を傾聴しつつ把握し、それ以外の不安事項についても対応し、信頼できる環境づくりを実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のアセスメントで出来る事できない事の評価を行い、本人にとって一番であるケアのアドバイス等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃活動や食器の後始末など出来る事を実施して頂き、共同生活として成り立つような関係を作る努力を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議報告書を作成し、家族へ配布している。又、行事に年2回招待し、触れ合う機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や知人の訪問を自由に行っている。入居者の姪が月に1回ほど花をたてる為に来所している。	家族、親類、知人の多数訪問があり、歓迎されている。家族と外食、帰宅など関係の継続が支援されている。広域連合地域で地元とする地域は広く、複数の夏祭りに家族や職員で参加し、利用者を支え全員が楽しんだ。氏神に初詣など、利用者が地域行事に参加できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の準備や、食事の挨拶など空間を共有時間帯は、集団活動を行い交流を深めている。又、気の合う者同士を隣りの席にする等配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、相談など困りごとについて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回アセスメントにおいて表面化した意向に沿いつつ、実際に生活する事でズレている部分を修正し、自分らしく生きていける配慮を行っている。	入居時の初回、その後3ヶ月毎にアセスメントする。日常の行動、表情から、日々の暮らしの希望や本人の気持ちを汲み取り、家族からの協力も得ながら支援している。「衣類の洗濯がしたい」、「お化粧がしたい」など、自分らしいこだわりを大切に、支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントにおいて把握した人生の経過を把握するとともに、ライフスタイルを尊重しつつ、健康で自立した生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、ケア記録に記載する事で変化を確認し、現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを基に、ケアプランを作成し家族に同意を得、適切なケアを提供している。	職員は、利用者1～2名を担当している。カンファレンスを基にケアマネジャー、職員が利用者の意向や思いを把握して、意見交換を行い、目標を持って生活が送れるよう支援している。生活の状態を定期的に確認し、目標と介護計画が適切か否かを確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に日々の様子を記載している。又、申し送り表を作成し、日々の情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を充実し、疾患の早期発見・早期治療できる支援を行っている。訪問看護ステーションの緊急時の対応も行っている。		

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人で行う行事に参加する事で、地域の方々と触れ合い、交わりが持てる事で、心身の活性化を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医や緊急搬送先など、医療面の確認を行っている。医療機関にかかる際は日常の様子や不調時の様子などの情報を書面で提供し、連携を取りながら対応している。	母体法人の医師が協力医で、月2回の往診がある。訪問看護ステーションから月2回、利用者全員に健康確認が行われる。主治医が協力医で無い場合、受診支援は家族に依頼しているが、夜間・休日・緊急時は協力医、訪問看護師と連携し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、入居者個々の日常の様子などの情報を共有し、定期的な訪問と、緊急時の対応や体調不良者等の相談にて、入居者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院側へ入居者の情報を提供し、安心して入院治療が出来る様にしている。又、容体を確認する為に、治療中の訪問や地域連携室等のMSWと連携を取って、早期に帰所出来る様、情報収集をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ対象者はいないが、契約時に見取りの指針を提示し説明を行っており、その指針を基に病院や訪問看護と連携を取り、関係者で対応できるチームを組み、本人、家族の意思を確認し尊重しながら対応する事としている。	法人の終末期の指針があり、職員は研修を受けている。対象の利用者がいれば、本人・家族の希望を確認、医師・職員・訪問看護師と連携を図り対応する。終末期を5段階に分け、その都度、医師が家族に利用者の状態の説明、家族の意思確認を行い、面談書を作成し、支援する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発生時落ち着いて実践できるように、マニュアルを基に定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行い、初期消火、通報、避難訓練を行っている。運営推進会議を通じて、自治会との連携ができるように要請している。	開設1年目のホームであるが、年2回の防災訓練を行い、内1回は消防署立ち会いの下、初期消火、避難誘導を実施している。2階のベランダは広く、一時避難場所になる。自治会や近隣とも協力関係が得られるよう運営推進会議などで要請している。	前身がショートステイ事業所で、1年前グループホームとなったことから、地域との関係づくりに力を入れてきた。更には、災害非難時の利用者支援や地域災害時の地域高齢者支援受け入れなど、地域との協力関係の推進を図ることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に施錠が出来ない為、認知症の入居者が間違っ、他の入居者の居室に入ってしまう事があり、現在施錠の設置を行う様に計画している。基本的には敬語を使用するように、管理者が接遇研修を受け指導している。	言葉遣いや、ケアに対する職員の基本姿勢は利用者を「お客さま」としている。声かけは利用者の横に行き1対1での会話になるよう取り組んでいる。利用者が他の利用者の居室に入ってしまう事例があり、利用者のプライバシーを守る方法について検討中である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを聞きながら行事や誕生会のメニューを決めている。又、常時本人の判断が出来る様な声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、ルーティン化している生活活動があるが、気分が乗らない日や入居者自身が決めた事に関しては、希望に沿う様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の化粧水の使用や、髭剃り後のローションの使用を積極的に勧め、化粧など身なりに気をつかう様に声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を聞き、不得意なメニューは代替えの物を提供して。味噌汁等の汁物の具材を切ったり、食器の後かたづけを行って頂いている。	法人栄養士が年2回嗜好調査を行い、栄養士が作成した献立表で、副食を厨房で作し、各ユニットに配膳する。ご飯と汁物は各ユニットで作し、野菜等下ごしらえや、下膳など利用者と共にしている。お酒やもちを食し、正月気分を味わってもらうなど、食に季節感を取り入れた支援を心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士がたてた献立に従い、健康に配慮した食事を提供すると共に、個別の嗜好、健康状態、能力に合わせて食事が摂取できる支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、口腔内の観察を行い口腔内の健康を管理している。その際も出来るだけ自力で行って頂く様に支援する。		

岐阜県 ファミリーケア本業

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメントを行い、本人の現状を把握し、できるだけ自力で失敗の無いように支援を行っている。	椅子からの立ち上がり時や車椅子の手すりを触るなど、そわそわした様子から、排泄につながる動作をよく観察、本人のリズムを把握し、適宜誘導を行い失敗しないよう自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、排泄の間隔を把握するとともに、水分量のチェックを行い便秘の状況を把握し、便秘時には運動を行えるようなレクリエーションの設定を行っている。訪問看護師にも情報を送り薬の調整等に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は曜日を決めて入浴を行っている。但し、入居者の気分的な変更などへの対応も受け付けており、随時ではないが臨機応変に対応する事はできる。	週4日が入浴日になっており、利用者は2日は入れるように支援している。1対1で入浴介助を行い、入浴後は皮膚掻痒予防とし、スキンローションを塗るなどし皮膚ケアにも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	アセスメントにより得た生活リズム、性格等に配慮し、休憩時間や就寝時間について入居者に合わせた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で配布される薬の内容書きをカルテに添付し、薬の変更があればリアルタイムで申し送り表に記載し、情報を共有している。又、複数人での服薬介助チェックを実施し、誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント表より生活歴を確認し、職業や趣味に沿った行事での役割や、メニューを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の体制が整っている事を条件に、買い物や散歩を実施。家族の協力が得られる場合は、一時帰宅を実施している。	寒い時期はホーム内での活動になるが、天候が良いときは、職員1人対利用者1~2人で近隣を散歩する。また、月1~2回は、大手スーパー、薬局へ買い物に出かけ、レジでの支払いを支援している。バラ園や紅葉狩りなどへ家族の協力を得ながら出かけ、季節の花木を楽しんでいる。	

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は、個々に現金を所持し、出来るだけ自力での精算を行う様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に合わせて家族に対して、メッセージカードを作成したり、希望があれば実施できる体制を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じることが出来る様な装飾を行っています。窓からは公園や、中庭が見え、季節を感じる事ができる。	ショートステイ事業所とし建設された建物を活用しているため、食堂兼居間、廊下、階段、トイレなどいずれも空間は広く採光がよく換気も行き届いている。中庭に家庭菜園、バーベキューが出来る場所があり、イベントなどを開催し、利用者・家族も楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファが配置されており、自由に使用して頂けている。尚、居室が広く設計されており、複数の訪問にも対応出来るため、居場所づくりとしては、居室が最適であると考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約の際に、自宅で使われていた物品や思い入れのある食器等を持ち込む事を推奨している。	ベッド、整理ダンス、洗面所、エアコンが設備として用意されている。居室の空間は広く、利用者の椅子が搬入されていても車椅子で自由に移動することができる。利用者の状態に合わせた備品の配置や搬入に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとなっており、見にくい表札は大きくした物をドアの低い位置に設置したり、毎月のカンファレンスにて、自立支援を目的とした協議を実施し、ケアプランに反映させている。		